

祝

みなさんの力に支えられて 歴史民俗資料館 開館35周年

歴史民俗資料館は、旧神崎郡役所の建物を移築復元して、昭和57年(1982)10月に開館し、今年35周年を迎えました。記念事業として、特別展、連続講座、記念グッズ制作を行っていますので、ぜひご参加いただき、ともに35周年をお祝いください。



近世のお宝

つるべ (福崎町指定文化財)



大蔵山山論絵図 (部分)



弥生・古墳時代のお宝

かめかん 甕棺 (福崎町指定文化財)



数可ノ古墳出土品



郡役所のお宝

神崎郡役所看板 (複製)



昭和のお宝

陸軍少年航空兵募集ポスター (部分)



「神崎タイムス」創刊号 (部分)



神東・神西郡地図 (部分)

くらしを支えた道具のお宝



むしるばた 苧機



とうみ 唐箕

明治・大正のお宝



神崎十勝図巻 (部分)

記念特別展
開催中!!

11/26(日)まで

「れきみんのお宝」35選

開館35周年を記念し、館蔵資料のなかから代表的なものを35件選出し、一堂に展示しています。「お宝」がずらりと並び、迫力ある特別展です。「お宝」が語る地域の豊かな歴史や文化をご観覧ください。

会場
歴史民俗資料館
11月の休館日
6日、13日、20日、24日、27日
開館時間
9:00 ~ 16:30

福崎町文化財だより 72

福崎町教育委員会
柳田國男・松岡家記念館
神崎郡歴史民俗資料館

~ 特別展をより深く知るために ~ 連続講座 「近代日本の郡役所」

「れきみんのお宝」のなかで重要な位置をしめる「郡役所のお宝」についての講座です。郡役所の制度やあり方、郡役所が果たした歴史的役割などについてお話しいただきます。



日時 11月11日(土) 14:30 ~

講師 深見貴成さん

(神戸市立工業高等専門学校・准教授)

会場 歴史民俗資料館 2階

特製「クリアファイル」好評販売中

「れきみんのお宝」が山模様にならび、クリアファイルを販売しています。今しか入手できない35周年記念のオリジナルグッズです。

価格 1枚100円

販売場所

歴史民俗資料館、

福崎町教育委員会



社会教育課

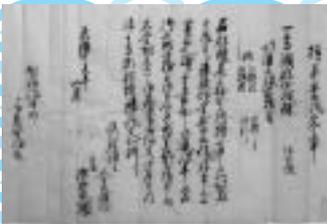
特別展示

三木家文書にみる
市川の舟運と高瀬舟

開催中!!

江戸時代、大量の物資を輸送する手段として、高瀬舟たかせぶねが大きな役割をはたしました。舟運しゅうりんは効率のよい物資輸送手段として、各地で利用されていました。福崎町の中央部を南流する市川でも、明治の初めまで、高瀬舟を利用した舟運が行われていました。

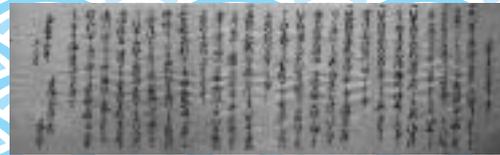
本展では、三木家に伝わる資料のなかから、高瀬舟などの舟運にかかわる資料を紹介します。明治になって生野いくのこうざんりょうぼしやみち鉾山寮馬車道(銀の馬車道)が整備され、つづいて播但鉄道が開通したことで姿を消した高瀬舟の歴史の一端をふりかえります。あわせて「市川実測図 平面図」(神崎郡歴史民俗資料館蔵)を、今回初めて全面公開します。



高瀬舟株年季譲渡証文



高瀬舟株書上(写)



高瀬舟通行につき諸願書継(部分)



市川高瀬舟(約1/5模型)

会 期 11月30日(木)まで
開館時間 9:00 ~ 16:30 (入館は16:00まで)
11月の休館日 6日・13日・20日・24日・27日

「遠野の昔がたり」

無料・申込不要

柳田國男先生の代表作のひとつ『遠野物語』を、三木家住宅の表座敷で語ります。あたたかい遠野言葉で語られる「オクナイサマ」(15話)、おほこみち「姥子淵の河童」(58話)、かっぱ「妻のたましい」(99話)ほかをお楽しみください。

日 時：11月18日(土) 10:00 ~ 11:00
語り部：大平悦子さん



市川実測図 平面図(河口部分)

幸せ運ぶ「つのなす」工作

無料・申込不要

福崎町の特産品「つのなす」は、黄色い実がキツネの顔に見える、おもしろい形をしています。幸せを運ぶ縁起物「つのなす」に目鼻口などを描いてキツネを作ります。



日 時：11月19日(日) 10:00 ~ 14:00
時間内にいつでも参加できます。
講 師：福崎切り花部会のみなさん

先着
50人

企画展「三木家の暖房用具」無料

三木家に伝来する民俗資料のなかから、なつかしい暖房用具を紹介します。

会 期：12月9日(土) ~ 1月28日(日)
開館時間：9:00 ~ 16:30
(入館は16:00まで)



会期中の開館日：
12月9日・10日・16日・17日・23日・24日
1月6日・7日・8日・13日・14日・20日・21日・27日・28日

松岡五兄弟

尾芝利七 松岡至

第30話



福崎の身近にある歴史を掘り起こそう

松岡兄弟の祖父

神戸大学大学院人文学研究科 地域連携センター研究員

井上 舞

中で、しばしば孫に会うために、手土産の煎餅を持ち、辻川まで歩いてきていました。

ところがある時、松岡家まできたものの、國男の姿がなかったために、「クニヲがおらん」と涙声で門のあたりをうるついていたことがありました。その姿を見ただけは、「あのきついおじいさまがこうまでないりはつたか」と嘆いたそうです。（「母の兄弟」）

たけの言葉にもあるように、若かりしころの利七はかなりのきつい性格だったようです。たけもまた、子どもたちから「きつい」「やかましや」と評されています。たけの性格は父親譲りだったのかもしれない。

ちなみに、國男は後年、文章を書く際にさまざまなペンネームを用いていましたが、その中のひとつに「尾芝古樟」という名前があります。尾芝というのは、もちろん母の実家の姓。古樟とは、その実家にあつた、古い樟の木にあや

かつたものだそうです。（「匿名の事」）

そして父方の祖父、松岡至のこと。至は網干（現在の姫路市網干）の中川家から養子に入つたことは、これまで何度かお話ししてきました。それ以前の生い立ちについては、「故郷七十年拾遺」の中で、國男が、祖父母と父に関する記録が見つかったとして紹介されています。これによれば、至は四人兄弟の末っ子で、幼いころの名を清五といま

た。2歳のときに父親の中川主水が亡くなったため、いつとき大阪のほうに養子に出されていたそうです。その後、兄を頼って郷里に戻り、漢籍を学ぶようになります。やがて詩人として名声を馳せるようになり、その後、郷学の明倫館（明倫館あるいは明倫堂という名の学問所は、近隣にいくつもあり、どの場所を指すのかは、定かではありませんが）の教授を経て、松岡家の養子となり、小鶴と結婚。

数年後、離縁された至は、生野（現在の朝来市生野町）に移り住み、真継という家に入り、唐の文学者陶淵明にちなんで、陶庵と号します。（「生家の祖父、真継立斎のこと」）

その後の陶庵の動向についてはよくわかっていません。國男は、先の「故郷七十年拾遺」の中で、文久3年（1863）に生野で起こつた尊王攘夷派の志士が起こした拳兵事件、いわゆる「生野の変」の際に陶庵が関わっていたと語っています。黒幕として檄文の草案を作り、明治の初めにそれが功績と認められて士族になつたとのことですが、これを裏付ける資料は残っておりません。真偽の程は定かではありません。

波乱の人生を生きた陶庵が生涯を終えたのは明治7年（1874）、國男が生まれる1年前のこと。その墓は真継家の菩提寺である本行寺（朝来市生野町）に作られました。ところで國男は、明治42年（1909）、農商務省の役員として北陸地方を視察した折に、生野を訪れ、陶庵の墓に詣でています。そして、真継家の隣の家に住んでいた人

とも話をしていきます。このときの心情について、國男は「予は性質も容貌も共に此翁に似たるかと思はる。懐かしさに堪えず」と記しています。（「北国紀行」）

先に記したように、陶庵は國男が生まれる前に亡くなっているため、國男は祖父の顔を知りません。ですが、このように述懐しているところをみると、生前の陶庵を知っている家族か、あるいはこのとき出会つた隣家の人から「似ている」と言われたのでしょう。陶庵の肖像などは残っていませんが、もしかしたら若いころの國男に似ていたのかもしれない。



本行寺

先月号まで、松岡兄弟の祖母小鶴、父操、母たけについて取り上げてきました。残るは祖父についてですが、残念ながら松岡家の祖父については、資料があまり残っておりません。具体的などのような人だったのかはよくわかっていません。ただ、柳田國男は「故郷七十年」の中で何度か祖父のことについて触れています。今回は、同書の中から、松岡兄弟の二人の祖父、尾芝利七と松岡至（真継陶庵）についてのエピソードを紹介していきます。

まずは母方の祖父、尾芝利七のこと。尾芝家は北条（現在の加西市北条町）にあった旧家で、医師を生業としていました。國男が辻川で暮らしていたころ、まだ利七は存命

（1909）、農商務省の役員として北陸地方を視察した折に、生野を訪れ、陶庵の墓に詣でています。そして、真継家の隣の家に住んでいた人

「第5回子どもふるさと展」開催中

福崎町では、町内の小・中学生を対象に、地域の歴史や文化を調査研究した作品を募集し、優れた作品には「柳田國男ふるさと賞」を贈り表彰しています。

このたび、平成29年度の受賞者が次のとおり決定しました。
 小学校低・中学年の部 八千種小学校3年 内藤のこさん
 小学校高学年の部 八千種小学校5年 上杉このみさん
 中学生の部 福崎東中学校1年 藤田捺未さん
 優秀作品71点は、「子どもふるさと展」で展示しています。
 小・中学生の力作を、ぜひご覧ください。

会期 11月26日(日)まで
 場所 柳田國男・松岡家記念館2階 会議室
 問い合わせ先 柳田國男・松岡家記念館(☎22・1000)

日本民俗学会 研究奨励賞表彰式

福崎町では、日本民俗学会の研究奨励賞に副賞を贈っています。この賞は35歳未満の次世代の民俗学を担う若手研究者へ授与されるものです。

平成29年度は、伏見裕子さん(大阪府立大学工業高等専門学校 総合工学システム学科 講師)の著書『近代日本における出産と産屋』香川県伊吹島の「出産と産屋」の存在と閉鎖」が受賞されました。

10月14日(土)佛教大学で開催された日本民俗学会第69回年会で、研究奨励賞表彰式



受賞者の伏見さん(右)と高寄教育長

今年も岩田健三郎さんによる版画教室を開催します。版画で手作りの年賀状を作ってみませんか。家族そろってご参加ください。

岩田健三郎さんの版画教室 参加者募集

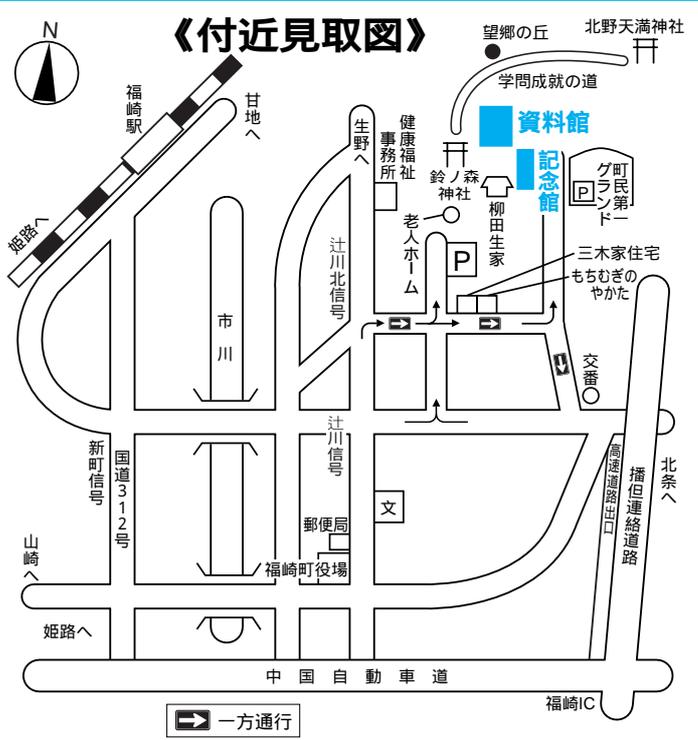
日時 12月10日(日) 13:30~
 場所 歴史民俗資料館2階
 材料費 100円
 持ち物 筆記用具、彫刻刀
 定員 40名 要申込
 申込先 柳田國男・松岡家記念館 (☎22・1000)

11月は文化財保護 強調月間です

文化財は、地域の歴史を伝えてくれる大切なものです。かけがえのない郷土の歴史遺産を、これからも長く未来へ守り伝えていきたいと思います。



町指定文化財(天然記念物) イチョウ(福崎新)



柳田國男・松岡家記念館 歴史民俗資料館 利用案内

開館時間 午前9時~午後4時30分
 休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土・日曜の場合は開館)、12月28日~1月4日
 入館料 無料
 交通 JR播但線で福崎駅下車、タクシー約10分。車は播但連絡道路・中国自動車道で福崎ICから約5分、または国道312号線を利用。



福崎町文化財だより ⑫
 発行 平成29年11月2日
 ● 福崎町教育委員会
 福崎町南田原316の1
 ☎0790220560
 ● 柳田國男・松岡家記念館
 ● 神崎郡歴史民俗資料館
 福崎町西田原1038の12
 ☎0790221000
 (記念館)
 ☎0790225699
 (歴史)